



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二四〇号〜

大雪

十二月七日

宇治神社御神遷

一年の最後の月、十二月。内宮前の宇治地区では、氏神さまである宇治神社の社殿が新しくなり、御神体をうつす御神遷が十一月二十六日、二十七日に行われました。

宇治今在家町宇丸山にある宇治神社は、明治四十一年に近隣の数十社を合祀して以来、宇治四ヶ町を守る氏神さまとして崇敬されてきました。真新しい神社の社殿は高床式で、屋根こそ萱葺ではありませんが、両側には太い棟持柱の立つ神明造。御門付き御垣でぐるりと囲まれた様子は、神宮の摂末社とよく似ています。拜殿には、御祭神がずらりと記されています。主祭神の大

山祇神をはじめ、御裳須曾姫神、豊玉比賣神、素戔鳴尊、天兒屋根命、速秋津日子神、速秋津比女神、新川比賣神、火産靈神、水波賣神などの神々の名は地域の人々の信仰を物語ってまいります。

控へ目に生くる幸せ根深汁

孝堂

根深汁は、葱を実にした味噌汁のこと。俳句では冬の季語で、歳時記によれば、煮干しで出汁をとった味噌汁の火を止める間際に、葱を入れ、煮過ぎないうちに食べるとあります。葱は解熱、発熱を促すので風邪の多い季節に取りたいもの。我が家では、焼き目をつけた白葱を味噌汁に入れます。今晩は根深汁にしようか、夕闇迫る神社を後にしました。

文 千種清美

